



中1 環境研修



本校は平成24年度よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、令和5年度より新たに第Ⅲ期として、「『里山発』豊かな探究心をもち、次代を創造する科学技術人材の育成」を研究開発目標に掲げ、様々な活動が行われています。中学生の時期に基本的なことを学び、高校での本格的なSSH活動へ繋げる為に、例年中学1年生で「環境研修」という形で事業に参加しています。

これまで7月に実施されていましたが、近年の暑さなどもあり今年度は9月に実施されました。当日は晴天の下、時折吹く心地よい風の中、クラスごとに活動を行い、初めての経験を通して新しい学びや発見を得られました。



『里山を再生して 生きものが住みやすい環境を取り戻そう』

を今回の環境研修のテーマに掲げ、まずは「学ぼう 発見しよう 里山づくり」として講義を受講し、その後クラスごとに4つのテーマで里山に入り実習を行いました。



SSH部長 原先生

「里山とは何か？」というお話から始まり、環境保全の重要性や、私たち人間を含む生物への影響などを説明してくださいました。



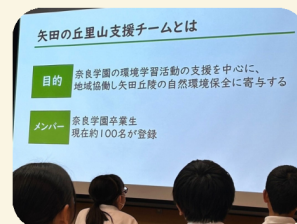
矢田の丘里山支援チーム 小宮先生

本校卒業生TAで、矢田の丘里山支援チームの小宮先生よりホタルの生態や環境について、分かりやすく教えていただきました。



株式会社庭樹園 太田先生

2007年から本校の里山活動に携わってくださっており、ビオトープ施工管理士の株式会社庭樹園の太田先生は、木を伐採することなど様々な活動が里山保全にとってどのような意義があるかなどお話ししてくださいました。



本日のミッション

- ・生物のことを知ろう
- ・生物を守るために里山を保全しよう
- ・保全のためのテクニックを学ぼう

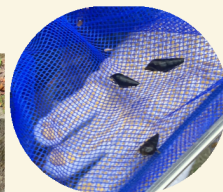


A組

「環境修復」

学校にも多く生息するゲンジボタルの成長に欠かせないホタルのエサとなるカワニナ。(ゲンジボタルは成虫になる為に、幼虫の時期に30匹ものカワニナを食べるそう!!) そのカワニナがたくさん育つ環境が、本校総合グラウンドのすぐ近くにありました。土嚢を作り、カワニナが生息しやすい環境を整え水の流れが緩やかになるよう考え、作った土嚢を置く作業をしました。

土嚢作り



カワニナ



水の流れが緩やかになったよ!

B組

「棚田と生き物」



1学期に1年生の有志も挑戦した田植え。暑い夏の間にはしっかりと育ち、収穫間近の稲。7月の大雨で半分が流れてしまった棚田の整備作業に奮闘しました。シオカラトンボやイナゴ、カマキリなどたくさんの昆虫が当たり前のように集まる棚田で、思わず虫取りに夢中になる生徒たちでした。

本校にある棚田
ここでは「農林22号」
が育てられています



棚田の近くには、イノシシ対策の為に電気牧柵や、里山に生息する動物研究の為にカメラが設置されています



C組

「里山の営み」

C組は「里山の営み」というテーマの下、自然観察指導員の先生にご指導いただき、里山の木々の伐採に挑戦しました。

慣れないノコギリでの作業に四苦八苦しながらも、幹枝を残しつつ脇芽をしっかり刈り取りました。その後は3種類の葉っぱを探し、全員で葉っぱじゃんけん！ギザギザが多い葉、長い葉、緑が濃い葉など、植物それぞれの特性があることに注目したじゃんけん大会を楽しみました。



白熱した
じゃんけん大会



森林の木を計画的に適切に伐採することは、生物を守る為に必要！！

D組

「ため池と水の営み」

ビオトープ施工管理士の先生にご指導いただき、上流から流れる水を8：2の流れに配分することで、水辺に生き物が集まるよう、ため池を掘る作業を行いました。

穴を掘る、土を運ぶ、集めた土で土嚢を作る、とそれぞれ分担し、みんな泥だらけになって力作業を頑張りました。



ため池
完成!!



編集後記

中1の生徒の皆さんにとって初めての環境学習。本校ならではの恵まれた環境で得た多くの学びや気づきを大切に、今後の学習やSSH活動に生かしてほしいと思います。先生方が生き生きと、生徒たちと共に楽しそうに活動されている姿が印象的でした。

「子どもたちが主体的に自分たちがやりたい事をできる限り実現してあげたい。そして失敗という経験も糧として学んでいって欲しい」という先生のお言葉が、とても心に残りました。先生方をはじめ、高2SS発展グループの先輩方や多くの方々のご指導やサポートのおかげで、生徒たちだけでなく保護者にとっても大変有意義な時間となりましたこと、心より感謝いたします。

中学1年 学級委員一同